

統合国際深海掘削計画 (IODP) (IIS-PPG) 会議報告書

提出年月日: 平成 19 年 1 月 29 日

(ふりがな) たかの おさむ つじ よしひろ

氏名: 高野 修 ・ 辻 喜弘

所属(職名): 石油資源開発(株)探鉱研究室シーケンス層序グループ長 ・ (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構石油・天然ガス開発R&D推進グループ地質探査研究チームリーダー

会議名	第 2 回 IIS-PPG (IODP/Industry Science Project Planning Group) 会議
会議期間	平成19年1月19日 ~ 平成19年1月20日
用務地(国・都市)	米国、テキサス州ヒューストン
目的	ヒューストンのアメラダヘス社で開催された第2回 IIS-PPG 会議にメンバーとして出席し、IODP に対しての産業界の貢献の方法に関連する事項に関して議論を行った。
会議内容及び報告事項	<p>会議はアメラダヘス社で開催された。</p> <p>日本からは、パネル委員である辻と、委員の山田泰広京都大学助教授の代理出席としての高野修の両名が出席するとともに、IODP-MI(札幌)の江口暢久氏が出席された。その他の出席者は次のとおり。</p> <p>IIS-PPG Attendees: Richard Davies (Durham Univ.) Harry Doust (Vrie Univ.) Andrew Pepper (Amerada Hess) Martin Perlmutter (Chevron) Kurt Rudolph (ExxonMobile) Ralph Stephen (Woods Hole Oceanographic Institution)</p> <p>Guests (* first day only): *Michael Grecco (Chevron) Young-Joo Lee (KIGAM) *John Hopper (TAMU) *Harm van Avendonk (Univ. Texas)</p> <p>Ex-Officio Attendees: Keir Becker (Univ. Miami) Manik Talwani (IODP-MI本部)</p> <p>また、欠席者は以下であった。</p> <p>IIS-PPG Regrets: Didier-Hubert Drapeau (TOTAL) David Roberts (Rockall Geosciences) Eugene Shinn (USGS OB)</p>

会議内容は以下のとおり。

- 1) 前回議事録 (<http://www.iodp.org/iis-ppg/>) の承認
承認された。
- 2) 現在のIODPの状況・掘削計画の紹介・他のパネルの審議状況のまとめ (Keir Becker)
プロポーザルの評価の現状、プラットフォームの当面の予定などについての紹介。
- 3) RPSEAとDeepStarの活動状況 (See RPSEA web site - <http://www.rpsea.org/>) (Mike Grecco)
米国内でのエネルギー確保に向けた連携の取り組み (RPSEA) と、国際的な大水深石油開発技術に関するコンソーシアム (DeepStar) の紹介
- 5) IIS-PPGの提案準備状況
SPCからの"Mission"の定義に関する報告(Keir Becker)
これまでのIODP掘削プロポーザルは個人あるいは特定個人を中心とした研究グループにより準備されたものが多かったが、その結果として、研究内容や技術に偏りが生じる、プロポーザルの準備に負担がかかるなどの問題が生じていた。このためIODPのSASではある分野に関する「ミッション」および「ミッションチーム」がプロポーザルをあげるシステムを推奨し始めている。IIS-PPGからプロポーザルをあげるという方法は、この方法になる。
 - a) Rifted margins (Ralph Stephen, John Hopper, Harm van Avendonc)
現在、ワークショップの開催などを通じてプロポーザルの準備が進められており、西アフリカ沖、ブラジル沖などの南大西洋のrifted marginが掘削候補に上がっている。ただし、前日にヒューストンで行われる予定であったChevron、Total、Petrobrasによる打合せは中止になったとのこと。
 - b) Mesozoic paleo-oceanography and source rocks (Harry Doust)
海洋無酸素事変などの中生代の古海洋環境と根源岩の形成も、石油地質にかかる一級のテーマであり、今後、現在の問題点や掘削地点などを絞り込む予定。
 - c) Shallow compaction and fluid flow (Richard Davies)
続成埋没時のオパール系鉱物の変化に伴う孔隙率が急激な変化や、関連する浅部地層変形も、石油地質学上の大きな問題の一つであるため、このテーマに関する掘削プロポーザルも準備中である。
- 6) 各国の IODP-Industry Liaison の取り組み
 - a) UK ILP meeting on October 5 (Richard Davies)
石油会社と大学からの出席があり、4件のプロポーザルを作成中である。
 - b) Japanese poll for industry participation (Yoshihiro Tsuji)
辻より日本の石油会社地質担当者に対しての石油の探鉱におけるIODPデータの活用あるいは今後のIODPの利用を調査したアンケート結果を報告。
- 7) IIS-PPG権限や構成メンバー、活動方法(Ralph Stephen).
権限に関しては、産業界のニーズを吸い上げ、問題解決にふさわしい掘削ロケーションを決め、プロポーザル作成を支援することが最も重要であることが確認された。プロポーザルは、産学の連携を十分図って作成すべきとの意見が多かった。構成メンバーは石油業界に限ることなく、近年進展が目覚ましくIODPの目的とも合致するバイオテクノロジー関連業界も含むべきとの意見があった。産業界の要望に対してIODPのプロセスは時間がかかりすぎるといった問題点の指摘や、IODPプロポーザルプロセスにかかる資金のうちサイトサーベイなどは産業界が拠出する必要があるとの考えも示された。
- 8) 2007年4月1日の提出を目指すプロポーザルとプレプロポーザルの戦略
前述の3プロポーザルについてはワークショップなどを通じて、準備をすすめること、前述3プロポーザル以外に、「堆積物の堆積プロセスと貯留岩分布」に関するプロポーザル、「北極掘削」に関するプロポーザルも準備中であることが報告された。
- 9) 次回の日本での会議 (Yoshihiro Tsuji)
次回の会議は2007年7月23日前後にIODP-MI 札幌オフィスのアレンジにより札幌で開催されることとなった。また、その際、苫小牧の勇払ガス田およびGTL施設の見学の可能性が話題になった。

全体討論と合意事項

IIS-PPG Consensus 0701-1: IISPPG は、2007年4月1日の提出期限に向けて二つのプロジェクトプロポーザルの提出を推進する。1)リフト縁辺域のミッションプロポーザルに含まれる南大西洋リフト縁辺域のプロジェクト。2) シリカの続成作用、浅部圧密、流体移動のテーマに関するプレプロポーザル。

IIS-PPG Consensus 0701-2: IISPPG は、2008年4月1日の提出を目指して、中生界根源岩と古海洋学についてのプロポーザルあるいはプレプロポーザルの作成を推進する。

IIS-PPG Consensus 0701-3: 北極海堆積盆地は、堆積盆地の発達、古海洋学、古気候変化の観点から、科学的解明の残された数少ない対象の一つである。IISPPG は、この海域が学术界と産業界の両方にとっての興味の対象であると考え、産学共同の掘削を考えた2-3ページの white paper を準備する。

IIS-PPG Consensus 0701-4: IISPPG は、US、ヨーロッパに加え、例えば、石油技術協会でのブースなど、日本での石油産業界での IODP についての認識を高めるべく IODP-MI が努力するよう勧告する。次回の札幌でのミーティングに併せて、IISPPG は「IODP データの石油探鉱への応用」についてのミニワークショップに参加する。

IIS-PPG Consensus 0701-5: IISPPG は、IODP のデータマネージメント(SEDIS portal)の努力を支援する。米国、日本、ヨーロッパのデータマネージメント努力に整合性を持たせることは非常に重要である。特に、産業界の利用者が開発の方向性を示し、データマネージメントの基盤の実用性を確実にするためにパイロットプロジェクトに参加することを要求する。

IS-PPG Consensus 0701-6: IISPPG は、EGI (Energy Geoscience Institute - University of Utah) と連絡を取り、彼らが IODP の研究者とともに DSDP、ODP、IODP の坑井データを統合したデータベースを構築することに興味を持っているかどうかを確認する。

IIS-PPG Consensus 0701-7: IISPPG は、IODP-MI が RPSEA や DeepStar プロジェクトのメンバーになることを支援する。IISPPG は、Deep Star Technical Advisory Committees の地球科学と坑井内計測に関する事項についてどのように進展させるかを見守る。

IIS-PPG Consensus 0701-8: IIS-PPG メンバーはその代理出席者を決める際にはそれぞれが連絡を取りやすい相手とする。理想を言えば、これらの代理出席者は、PPG メンバーとしての適格性を満たしているべきである。各国の委員会 (米国と日本では PMO) は、必要に応じ、その代理出席者に対しての旅費を支払うこととすべきである。

事務局又はJ-DESCへのご要望・コメント等

次回の会議は、札幌で IODP-MI の札幌オフィスにアレンジいただいて開催することとなりましたので、宜しくお願いいたします。

また、次回の会議の前あるいは後に東京でワークショップ「IODP データの石油探鉱への応用」の開催があれば会議参加者は参加の上で事例紹介をしたいとコメントをくれています。わが国の石油開発業界の技術者ばかりでなく大学等の研究者にも声をかけワークショップを開催することは、わが国石油開発業界技術者のもつ IODP についての認識を広げるとともに、学会に対しても産業界の要望を伝えることになり、IODP に対して国内の産学が連携する第一歩になるものと考えます。是非、同ワークショップの開催に向け、事務局および J-DESC のご支援をお願いいたします。

さらに、札幌からの勇払ガス田等の見学旅行に関し、今後 IIS-PPG として実施を提案する場合につきましても、よろしくご理解とご協力をお願い申し上げます。